

みんなのデジタルリポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 2No. 3; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009264

1977・9 2_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告



論文

ハルマヘラ島における民俗方位の構造——吉田集而

野生堅果類，とくにトチノミとドングリ類のアク抜き技術とその分布——松山利夫



資料・研究ノート

人間関係における認知の形式に関する一考察

——アマゾン・カマユラ族の親族事例——大給近達

ミクロネシア・プルスク島における家屋と住まい方——中村基衛

中央アンデス地帯の染織文化——その文化史的観点からの一考察——藤井龍彦

近畿地方のタケカゴ細工——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(4)——中村俊亀智



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

2 卷 3 号

1977 年 9 月

目 次

論 文

ハルマヘラ島における民俗方位の構造 ……………吉 田 集 而……437

野生堅果類、とくにトチノミとドングリ類の

アク抜き技術とその分布 ……………松 山 利 夫……498

資料・研究ノート

人間関係における認知の形式に関する一考察

——アマゾン・カマユラ族の親族事例—— ……………大 給 近 達……541

ミクロネシア・プルスク島における家屋と住まい方 ……………中 村 基 衛……565

中央アンデス地帯の染織文化

——その文化史的観点からの一考察—— ……………藤 井 龍 彦……590

近畿地方のタケカゴ細工

——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(4)—— ……………中 村 俊 亀 智……605

彙 報 ……………632

国立民族学博物館研究報告寄稿要項 ……………640

国立民族学博物館研究報告執筆要領 ……………641

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 2 No. 3

September 1977

YOSHIDA, Shuji	On the Notions of Orientation in Halmahera437
MATSUYAMA, Toshio	An Ethnological Study on the Technology of Removing Tannic Acid from Acorns and Buckeye498
OGYU, Chikasato	On the Patterns of Cognition in Human Relationships —Kinship in Kamayura Tribe, Amazon Area—541
NAKAMURA, Motoe	A Note on the Dwellings of the Pulusuk Islanders in Micronesia565
FUJII, Tatsuhiko	Textile Culture in the Central Andes —A Note from the Viewpoint of Cultural History—590
NAKAMURA, Takao	Basket-working in Japan (4): Kinki Area.....605

彙 報

(昭和52年 4 月～
昭和52年 6 月)

人事異動

昭和52年

4 月 1 日 霜田 晋を技官(管理部施設課)に採用

盛本 力を事務官(情報管理施設資料室)に採用

三宅輝久を技官(情報管理施設技術室)に採用

吉見賢一を技官(情報管理施設技術室)に採用

煎本 孝を助手(第 1 研究部)に採用

中牧弘允を助手(第 1 研究部)に採用

秋道智彌を助手(第 2 研究部)に採用

稲井豊秀(文部省学術国際局学術課総務係長)は、管理部会計課長に昇任

村尾 康(文部省学術国際局ユネスコ国際部国際学術課協力研究係長)は、管理部展示課長に昇任

樺島史明(大阪大学理学部庶務掛広報連絡主任)は、管理部庶務課人事係長に昇任

中尾仁三(大阪大学産業科学研究所経理課経理掛予算主任)は、管理部会計課監査係長に昇任

山室邦夫(管理部会計課)は、管理部会計課主計係予算主任に昇任

中村郁男(管理部企画課製作係長)は、管理部展示課製作係長に配置換

伊藤幹治(第 5 研究部教授)は、第 3 研究部教授に配置換

垂水 稔(第 3 研究部助教授)は、第 5 研究部助教授に配置換

加藤義行(管理部会計課長)は、国立科学博物館庶務部会計課長に配置換

植田守彦(管理部庶務課人事係長)は、大阪大学文学部庶務掛長に転任

5 月 1 日 吉田 博を事務官(管理部企画課)に採用

飯田茂幸を事務官(情報管理施設資料室)に採用

研究部長人事

昭和52年

4 月 1 日 伊藤幹治(第 3 研究部教授)は、第 3 研究部長に併任

祖父江孝男(第 1 研究部教授)は、第 3 研究部長併任解除

運営協議員増員

昭和52年 4 月 1 日付けで運営協議員が 4 名増員された。

加藤 九祚	国立民族学博物館教授
君島 久子	国立民族学博物館教授
杉本 尚次	国立民族学博物館教授
竹村 卓二	国立民族学博物館教授

展示企画委員会委員の異動

1. 新任

昭和52年 5 月20日付け

伊藤 幹治 国立民族学博物館教授

2. 再任

昭和52年 4 月 1 日付け

黒川 紀章 黒川紀章建築・都市設計事務所社長

昭和52年 5 月20日付け

祖父江孝男 国立民族学博物館教授

佐々木高明 国立民族学博物館教授

大給 近達 国立民族学博物館教授

展示企画委員会専門委員の異動

1. 新任

昭和52年4月16日付け

勝井 三雄 グラフィックデザイナー

2. 再任

及川 昭文 筑波大学講師（電子・情報工学系）

長尾 真 京都大学教授（工学部）

山本 毅雄 東京大学助教授（大型計算機センター）

昭和52年6月1日付け

栗津 潔 グラフィックデザイナー

岡田 晋 九州芸術工科大学教授（芸術工学部）

後藤 和彦 NHK総合放送文化研究所主任研究員

昭和52年6月16日付け

国井 利泰 東京大学助教授（理学部）

客員研究部門担当教官

昭和52年度における国立民族学博物館客員研究部門担当教官は、下記のとおりである。

（4月16日現在）

第1研究部

教 授 佐口 透（金沢大学法文学部）

助教授 守屋 毅（愛媛大学教養部）

講 師 高取正男（京都女子大学文学部）

第2研究部

教 授 石井米雄（京都大学東南アジア研究センター）

教 授 中根千枝（東京大学東洋文化研究所）

助教授 青木 保（大阪大学人間科学部）

第3研究部

教 授 大林太良（東京大学教養学部）

教 授 山口昌男（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

助教授 谷 泰（京都大学人文科学研究所）

助教授 長島信弘（一橋大学社会学部）

第4研究部

教 授 増田昭三（東京大学教養学部）

助教授 米山俊直（京都大学教養部）

助教授 牛島 巖（筑波大学歴史・人類学系）

助教授 畑中幸子（金沢大学法文学部）

第5研究部

教 授 木村重信（大阪大学文学部）

教 授 長尾 真（京都大学工学部）

館内各種委員会の増設

昭和52年4月1日付けで、下記の2委員会が新たに設置され、これに伴って出版・編集委員会は廃止された。（○印は委員長）

出版委員会

○伊藤幹治，加藤九祚，杉本尚次，松原正毅，和田正平，小山修三，垂水 稔，石森秀三，関本照夫，宮本 勝

編集委員会

○加藤九祚，伊藤幹治，松原正毅，小山修三，石毛直道，垂水 稔

館内各種委員会委員の追加

映像・音響委員会

秋道智彌，煎本 孝

研究部運営委員会

煎本 孝

広報委員会

秋道智彌

大学院委員会

中牧弘允

図書委員会

中牧弘允

展示のためのプロジェクト・チームの増員

アメリカ展示

煎本 孝

オセアニア展示

秋道智彌

東アジア展示

中牧弘允

各 個 研 究

昭和52年度における各個研究の研究課題は、下記のとおりである。（*は客員研究部門担当教官）

第1研究部

祖父江孝男——日本人パーソナリティの再検討：他民族との比較再考および時代的变化・地域差の分析

君島 久子——華南における種族集団と民間伝承の研究—山地民を中心として—

竹村 卓二——華南・東南アジア大陸におけるヤオ族の種族史と社会構造

加藤 九祚——中央アジア農耕社会—とくにタジク族について—
間宮林蔵の見たギリヤク族

*高取 正男——日本古代を中心に、仏教受容と排仏意識醸成の問題、これに関連する民間の禁忌意識—とくに死生の忌みについて—

*佐口 透——カザフ族の民族誌的研究
松澤 員子——双系社会の比較研究—台湾山地パイワン族社会を中心にして—

大塚 和義——北アジア諸地域の狩猟儀礼について—とくに鹿を中心として—
アイヌの礼冠について

小谷 凱宣——アラスカ・エスキモーの考古学的調査
アラスカ原住民のコーポレーション組織

*守屋 毅——中世日本における祭礼と芸能—民俗芸能の芸能的研究の一環として—

中山 和芳——ニューギニア高地の Wild Man におけるシンボリズム

松山 利夫——野生食用動物、とくに堅果類の加工方法に関する研究
わが国の農・山村における物質文化の変容と生活様式の変化に関する研究—その1. 北上山地山村の事例—

大胡 修——日本村落社会の構造的特質についての研究—その1.
海村社会における親族組織の形成過程について—
ミクロネシアおよび日本における海村社会の比較研究

中牧 弘允——ハワイ日系人の宗教に関する調査研究
宗教運動における祭の比較研究

煎本 孝——カナダ国サスカチワン州ワラストンレイク地区におけるチペアン・インディアン
の生態人類学的研究

第2研究部

佐々木高明——照葉樹林文化の比較研究—その多角的分析—
南島における農耕技術の比較研究—その基礎的分析—

*石井 米雄——タイ国古代法典に関する基礎的研究

*中根 千枝——チベットの社会構造—20世紀前半を中心として—

友枝 啓泰——上流アマゾン流域諸族の Ayahuasca 利用に関する民族誌的研究

松原 正毅——トルコ系諸民族の社会構造
栗田 靖之——用具—行動を通じての生活様式論

藤井 知昭——アジアにおける民族音楽の比較研究—その1—
愛知県北設楽郡における民俗音楽の研究

杉村 棟——イスラム教圏（イラン）における伝統文化の変容

*青木 保——儀礼的行動の研究—現代日本社会におけるコミュニケーションの Formal Aspects の実態研究—

田邊 繁治——タイおよびランナータイ稲作農村の民族誌的研究

吉田 集而——Toba・Batak 族の生活様式, Folk Classification に関する研究

秋道 智彌——ソロモン諸島マライタ島ラウ漁撈民の民俗魚類学的研究

第3研究部

伊藤 幹治——宗教と社会の連関モデル
東北農村におけるカトリシズムの受容と展開

和田 祐一——二重言語生活の諸問題

*大林 太良——ユーラシアにおける戦神の信仰と神話

*山口 昌男——西アフリカのトリックスター神話の構造分析

端 信行——アフリカ農民社会の形態学的分析

和田 正平——イラク族における幽霊結婚の研究

江口 一久——北カメルーンの Oral Literature
フルベ族の物質文化

福井 勝義——アフリカにおける牧畜民の社会生態とシンボリズムの研究

*谷 泰——環地中海地域の農牧にかかわる象徴表現の比較分析

*長島 信弘——西南ケニアにおける宗教諸運動

大森 康宏——民族誌映画の実際と応用における諸問題

須藤 健一——ミクロネシアにおける土地所有の研究

山本 紀夫——南アメリカにおける根栽農耕文化の比較研究 I. 物質文化の比較研究—とくに農

耕具, 加工道具を中心に—

第4研究部

大給 近達——文化における時間認識の型式について

物質文化の変遷と文化における意味変化について—衣服の事例を中心として—

杉本 尚次——日本民家の研究(補充調査研究)—中国・四国地域—
オセアニアにおける居住様式の研究(1)トレス海峡諸島調査の整理とまとめ

中村俊亀智——ワカンジキの用具論的研究
日本列島におけるカゴ細工の系統的研究—近畿・中国・四国・九州—

*増田 昭三——16世紀中央アンデス農村の民族誌

黒田 悦子——米国, ニューメキシコ州のスペイン系およびメキシコ系アメリカ人の “ethnic identity” の研究

メキシコ・オアハカ州のミヘ(族)の社会組織と儀礼についてのモノグラフの完成

小山 修三——狩猟採集社会の自然環境決定要素の決定と人口の推算

*米山 俊直——社会(集団)の名称の整理と分析

*牛島 巖——ミクロネシア・ヤップ島の交換体系

*畑中 幸子——パプア・ニューギニアにおける social movement
Polynesian navigation と atoll settlement について

藤井 龍彦——中央アンデス地帯先コロンプス期の石器文化

石森 秀三——ポリネシアにおける土着主義運動の比較研究

第5研究部

*木村 重信——先史および古代の美術の人的, 社会的機能の研究

- *長尾 真——親族関係データの計算機による処理方式
民族学用語収集に関する計算機利用
- 石毛 直道——東部インドネシア・ニューギニアにおける生活様式と物質文化の研究
- 杉田 繁治——自然言語の機械処理に関する基礎的研究
- 垂水 稔——「結界」の文化人類学的考察
- 櫻井 哲男——和歌山市における子供のわらべうたの研究
韓国・済州島における民俗音楽の研究
- 泉 幽香——韓国農村生活における結合契機をめぐる諸問題—日本農村生活の理解のために—
- 関本 照夫——中部ジャワ稲作農村の経済生活と儀礼的社会関係の研究
稲作村落の国際比較—東南アジアと日本における稲作社会の近代化過程の基礎研究—
- 宮本 勝——フィリピン諸種族の生活空間の比較研究
- 山本 順人——計算機上での地図データの構成に関する研究

共同研究活動

昭和52年度における共同研究班の研究課題および班員は、下記のとおりである。(五十音順、*は共同研究員として委嘱した館外研究者)

「日本民族学史の研究：(1)浜澤敬三」

代表者——祖父江孝男

班 員——秋道 智彌 伊藤 幹治
梅棹 忠夫 杉本 尚次
須藤 健一 松原 正毅
米山 俊直

「うつわ(器)の用具論的研究」

代表者——中村俊亀智

班 員——大塚 和義 *車 政弘
*後藤 勇雄 杉村 棟
*近森 正 *松本 敏子
松山 利夫 *宮内 愨
*山本 忠尚 *芳井 敬郎

「北・中央アジア民族誌の基本文献についての基礎調査」

代表者——加藤 九祚

班 員——大塚 和義 *小川 真子
*黒田信一郎 佐口 透
*佐々木利和 *原山 煌
*堀 直 *山田 信夫

「黒アフリカにおける物質文化の比較研究」

代表者——和田 正平

班 員——*赤阪 賢 *阿部 年晴
石毛 直道 *上田 将
江口 一久 *大森 元吉
*掛谷 誠 *川田 順造
*田中 二郎 長島 信弘
中村俊亀智 *西村 滋人
端 信行 *日野 舜也
福井 勝義 藤井 知昭
*松井 健 *森 淳
米山 俊直 *和崎 春日

「西アジアにおける文化変容：民族と音楽」

代表者——藤井 知昭

班 員——櫻井 哲男 杉村 棟
*鈴木 道子 *高橋 昭弘
*龍村あや子 松原 正毅
*馬淵卯三郎 *水野 信男
*山口 修

「東南アジアにおける慣習法の研究」

代表者——石井 米雄

班 員——*池端 雪浦 *石沢 良昭
*梶原 景昭 *北原 淳
関本 照夫 田邊 繁治
*田村 克己 *土屋 健治
*友杉 孝 松澤 昌子
宮本 勝 *吉川 利治

「新大陸における文化変容」

代表者——大給 近達

班 員——*石井 章 煎本 孝
 *大貫 良夫 黒田 悦子
 小谷 凱宣 *佐藤 信行
 友枝 啓泰 藤井 龍彦
 増田 昭三 山本 紀夫

「ミクロネシアにおける日本文化の受容過程
 に関する文献研究」

代表者—— 杉本 尚次
 班 員—— 秋道 智彌 石毛 直道
 石森 秀三 牛島 巖
 大胡 修 須藤 健一
 *中村 基衛 畑中 幸子
 *山本 真鳥

「民間信仰の民族学的研究」

代表者—— 伊藤 幹治
 班 員—— 石毛 直道 石森 秀三
 泉 幽香 *杉藤 重信
 高取 正男 *中田 睦子
 中牧 弘允 *野村 雅一
 端 信行 藤井 知昭
 松原 正毅 *宮田 登
 宮本 勝 *森田 三郎
 和田 正平

「華南における少数民族の伝承に関する基礎
 資料の調査および蒐集と分類」

代表者—— 君島 久子
 班 員——*蒲原 大作 佐々木高明
 竹村 卓二 *直江 広治
 *新島 翠 *伴 幸子
 *渡辺弥栄子

「有用植物の民族植物学的・辞書的研究」

代表者—— 佐々木高明
 班 員——*倉田 悟 *小林 昭雄
 小山 修三 *阪本 寧男
 *清水 建美 *田中豊三郎
 *中尾 佐助 福井 勝義
 *堀田 満 *松谷 暁子
 松山 利夫 *安田 喜憲
 *山口 裕文 山本 紀夫
 吉田 集而 和田 祐一

「ハルマヘラ島の民族誌的研究」

代表者—— 石毛 直道

班 員—— 大胡 修 佐々木高明
 *堀田 満 松澤 員子
 山本 順人 吉田 集而
 和田 祐一

「ペルー国リマ市天野博物館所蔵品の整理研
 究」

代表者—— 梅棹 忠夫
 班 員——*加藤 泰建 *寺田 和夫
 藤井 龍彦 山本 紀夫

「日本の村落社会における物質文化の比較研
 究」

代表者—— 梅棹 忠夫
 班 員—— 秋道 智彌 石毛 直道
 石森 秀三 泉 幽香
 伊藤 幹治 大胡 修
 大塚 和義 大給 近達
 君島 久子 櫻井 哲男
 佐々木高明 杉村 棟
 杉本 尚次 須藤 健一
 関本 照夫 祖父江孝男
 中村俊亀智 端 信行
 藤井 龍彦 藤井 知昭
 松原 正毅 松山 利夫
 宮本 勝 吉田 集而
 和田 正平

「民族学におけるコンピュータ利用につい
 て」

代表者—— 栗田 靖之
 班 員——*池田 秀人 *岩本 圭甫
 小山 修三 佐々木高明
 杉田 繁治 祖父江孝男
 垂水 稔 長尾 真
 松原 正毅 山本 順人

「沿オホーツクの物質文化に関する比較研
 究」

代表者—— 大塚 和義
 班 員—— 煎本 孝 *岡田 宏明
 加藤 九祚 *加藤 晋平
 *萱野 茂 小谷 凱宣
 祖父江孝男 *藤村 久和
 *藤本 強 *藤本 英夫

「経済人類学の理論的研究」

代表者—— 端 信行

班 員—— 石森 秀三 泉 幽香

*大塚 忠 栗田 靖之

*栗本慎一郎 *深野 康久

*吉沢 英成

「民俗文化における象徴的表現の比較研究」

代表者—— 佐々木高明

班 員—— 石井 米雄 石毛 直道

*岩田 慶治 杉本 尚次

*高谷 好一 竹村 卓二

田邊 繁治 *近森 正

端 信行 松原 正毅

「コンピュータによるタイ語古代法典（三印

法典）の総字索引作成」

代表者—— 杉田 繁治

班 員—— *赤木 攻 石井 米雄

*石沢 良昭 *植村 俊亮

栗田 靖之 *坂本 恭章

佐々木高明 *沢村 正信

田邊 繁治

「牧畜社会の比較研究」

代表者—— 谷 泰

班 員—— 梅棹 忠夫 加藤 九祚

*小林 茂 佐口 透

*田中 二郎 *富川 盛道

福井 勝義 *福川 昭一郎

*松井 健 松原 正毅

*山田 信夫 和田 正平

「民間説話の比較研究：日本民話の研究資料

の収集保存および分類整理を通じて」

代表者—— 君島 久子

班 員—— *浅井 亨 *稲田 浩二

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	出 発	帰 国	行 先
山本 順人（第5研究部助手）	52. 5. 1	52. 5. 29	アメリカ合衆国，連合王国，フランス，スウェーデン
中牧 弘允（第1研究部助手）	52. 6. 5	52. 8. 9	アメリカ合衆国
山本 紀夫（第3研究部助手）	52. 6. 27	52. 9. 6	コロンビア，ペルー，ボリビア，アルゼンチン，ブラジル，エクアドル
端 信行（第3研究部助教授）	52. 6. 30	52. 7. 21	フランス，連合王国，ドイツ連邦共和国

*遠藤 庄治 大林 太良

*岡 節三 *小沢 俊夫

*笠井 典子 *三原 幸久

*宮本 正興

館内合同研究会

昭和52年

4月15日 「電子計算機による情報処理」

長尾 真

4月19日 「被差別部落の成立」

高取 正男

5月10日 「牧畜社会におけるカラー・シ

ンボリズムの構造——エチオ

ピア西南部のボディ族——」

福井 勝義

5月30日 「離島の生業——萩相島の場合

——」 石森 秀三

「九州山地の民家——椎葉，米

良を中心として——」

杉本 尚次

5月31日 「石垣島登野城における漁撈文

化」

端 信行，須藤 健一

「アマボンとカチウス——積雪

地帯における脱穀調整とその

用具」

佐々木高明，藤井 龍彦

「漁村社会の技術と伝統——漁

村の事例研究——」

大胡 修

「勝浦の年中行事」

宮本 勝

6月14日 「国立民族学博物館研究報告」

合評会

来館者抄

昭和52年

4月8日 塚本 哲人 (東北大学教授)
4月11日 Victor L. URQUIDI (コレヒオ・デ・メヒコ大学院総長)
4月12日 Man-Gap LEE (ソウル大学図書館長)
4月13日 河端 政一 (静岡女子大学教授)
4月15日 坂井 利之 (京都大学教授)
4月19日 藤枝 晃 (京都大学名誉教授)
4月25日 篠遠 喜彦 (ハワイ・ビショップ・ミュージアム人類学部長)

5月11日 Jacques ALLIERES (フランストゥールーズ・ル・ミライユ大学教授)
5月16日 佐藤 俊彦 (岩手医科大学助教授)
5月23日 Gordon T. BOWLS (アメリカ合衆国シラキュース大学名誉教授)
6月13日 飯島 茂 (東京外国語大学教授)
6月27日 赤谷 鑑 (国際連合広報局担当事務総長補)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、編集委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市山田小川41の1（日本万国博覧会記念公園）
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。
欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 2 卷 3 号

審 査 委 員

梅	棹	忠	夫	祖	父	江	孝	男
中	根	千	枝					

編 集 委 員

石	毛	直	道	伊	藤	幹	治
加	藤	九	祚 (編集委員長)	小	山	修	三
垂	水		稔	松	原	正	毅

編集事務協力

石 元 宏 勉

昭和 52 年 10 月 11 日 印 刷
昭和 52 年 10 月 18 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 2 卷 3 号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川 41-1

TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中 西 印 刷 株 式 会 社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.2 no.3
September 1977

- | | |
|-------------------|---|
| YOSHIDA, Shuji | On the Notions of Orientation in Halmahera |
| MATSUYAMA, Toshio | An Ethnological Study on the Technology of Removing Tannic Acid from Acorns and Buckeye |
| OGYU, Chikasato | On the Patterns of Cognition in Human Relationships—Kinship in Kamayura Tribe, Amazon Area— |
| NAKAMURA, Motoe | A Note on the Dwellings of the Pulusuk Islanders in Micronesia |
| FUJII, Tatsuhiko | Textile Culture in the Central Andes —A Note from the Viewpoint of Cultural History— |
| NAKAMURA, Takao | Basket-working in Japan (4): Kinki Area |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X